感染症

相双地域感染症発生動向調査週報(2026年第46週)

（令和8年11月9日～令和8年11月15日）

令和8年11月19日

定点報告（上段：定点当たり／下段：報告数）、全数報告（報告数）

区　分	疾　　病　　名	2026年 43週	44週	45週	46週	合計	2025年 合計	2024年 合計
定点報告	インフルエンザ	7.33	6.00	10.33	12.33	－	－	－
		22	18	31	37	810	2,558	1,616
	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）	1.00	1.33	2.33	1.33	－	－	－
		3	4	7	4	276	1,139	3,622
	RSウイルス感染症	1.00	9.00	5.50	3.00	－	－	－
		2	18	11	6	69	156	309
	咽頭結膜熱	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	9	78	337
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.00	2.50	1.50	1.00	－	－	－
		2	5	3	2	137	243	657
	感染性胃腸炎	1.00	－	1.50	－	－	－	－
		2	0	3	0	146	430	610
	水痘	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	8	10	6
	手足口病	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	136	15	952
	伝染性紅斑	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	141	0
	突発性発しん	－	－	0.50	－	－	－	－
		0	0	1	0	22	59	182
	ヘルパンギーナ	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	16	4	19
	流行性耳下腺炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	1	10	13
	急性出血性結膜炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	2	2	9
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	－	－	1.00	－	－	－	－
		0	0	1	0	5	16	1
	クラミジア肺炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	細菌性髄膜炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎	－	1.00	－	－	－	－	－
		0	1	0	0	30	42	16
	無菌性髄膜炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	インフルエンザ入院	1.00	－	1.00	3.00	－	－	－
		1	0	1	3	16	39	19
	新型コロナウイルス感染症（入院）	－	－	1.00	－	－	－	－
		0	0	1	0	28	56	120
	急性呼吸器感染症（ARI）	51.00	62.67	65.33	64.33	－	－	－
		153	188	196	193	7,780	8849	－

カラー流行表示は、福島県感染症発生動向調査週報(IDWR)の表示をそのまま表示しています。

定点把握疾患	インフルエンザとRSウイルス感染症の流行が見られます。

インフルエンザ	**相双地域及び県（県内総数）は、前週と比較して増加しました。※注意報** 増加傾向が続いています。今後、感染者数がさらに増加するおそれがあります。感染の拡大を防ぐため、普段と体調が異なる場合には出勤や登校を控えるなど、体調管理に留意するとともに、手洗いの励行、場面に応じたマスクの着用など、基本的な感染対策をお願いします。また、ワクチンはインフルエンザの発症や重症化の予防効果があるので、接種を検討してください。
RSウイルス感染症	**相双地域で流行が見られます。** RSウイルス感染症は、RSウイルスによる呼吸器感染症です。飛沫感染や接触感染により感染し、4-6 日の潜伏期間の後、風邪様症状等、様々な症状が生じます。特に1 歳未満の乳幼児の初感染では気管支炎、肺炎等症状が重くなる場合があり注意が必要です。インフルエンザと同様基本的な感染対策が重要であり重症化予防には妊婦や60 歳以上を対象としたワクチンが有効です。
つつが虫病	**本県で1例報告がありました。** つつが虫病は、病原微生物を保有するツツガムシ（ダニの一種）に刺された後、１～２週間後に発症します。人から人へは感染しません。主な症状として発熱、発疹、刺し口（刺された部位がカサブタに変化）、頭痛、倦怠感、肝機能障害などがあります。治療が遅れると重症化や、最悪の場合死に至ることもあるため、早期診断・早期治療が重要です。山林や草むら、農耕地に入る機会が多くなる初夏(４～６月)と初冬(１０～１２月)は注意が必要です。野外作業時は長袖・長ズボン・長靴等を着用して肌の露出を少なくし、作業後は速やかな入浴や着替えを心がけましょう。また気になる症状が現れた場合には、速やかに医療機関（内科、皮膚科など）を受診しましょう。
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	**本県で1例報告がありました。** 県内では高齢者の感染例がほとんどを占めています。初期症状には、発熱、悪寒、四肢の痛み、傷の発赤、腫れが見られますが、傷口からの感染を含め、様々な要因が感染経路となるため、異常を感じた際の早期の受診、初期治療が重要です。

インフルエンザが流行しています。感染の拡大を防ぐため基本的な感染対策の実践をお願いします。

・咳やくしゃみ等の症状があるときは、マスクを着用したり、鼻や口をティッシュ等で覆うなど、他の人への感染拡大防止に努めましょう。
・通院や医療機関・高齢者施設など訪問するとき等は、感染予防としてマスクを着用しましょう。
・流水・石けんによる手洗いは手指など体についたウイルスを除去するために有効な方法です。こまめな手洗いに努めましょう。
・室内ではこまめに換気をしましょう。窓開けによる換気は、対角線上にあるドアや窓を2か所開放すると効果的な換気ができます。
・普段と体調が異なる場合には、出勤や登校を控えるなどの体調管理に留意してください。

（参考・引用）福島県感染症発生動向調査、感染症週報、2026年第46号